

# JBIA 洋書輸入協会会報

Vol. 27 No. 5 (通巻312号) 1993年 5 月

## 理事会報告

4 月 8 日(金)

### (一) 1992年度決算審議

3月23日(火)総務委員会の時点では3月の収支が確定しないため1部推定実績で審議し仮承認とした。

### (二) 1993年度予算(総務委員会原案)審議

総務委員会原案の内決定を理事会に持ち越したメンバーリスト作成費を承認、PR用パンフ作成費は予備費計上とした。

雑誌NM委員会より提出のSLA関係費は山川委員長の説明により承認、その他の項目は総務委員会原案通りとした。

(三) 94東京国際ブックフェアはJBIAも主催団体に名を連ねるが、一切の運営はリードインターナショナルが行う旨理事長代理より説明があった。

(四) 結論が保留されていた理事定員数7名の件は賛成案が可決され5月14日の定時総会に諮ることとした。

## 海外ニュース

### —ダブリン市が新しい文学賞を設立—

ダブリン市は、近く、国際的な文学賞を設ける予定である。この賞は、アイルランド市長のA.G.ミッチェル氏がイニシアチヴをとって進めてきたもので、年間賞金額IR£50,000(5万アイリッシュ・ポンド)が予定されている。

この賞が実現すれば、市が5年間にわたりスポンサーをつとめ、資金として総額IR£500,000が提供されることになる。現在、最終的な認可を待つ状態であるこの案が成立すれば、来年には、賞の具体的な要綱をまとめることができるものと、ミッチェル市長はみている。

受賞対象となるのは、小説、ノンフィクション、詩または戯曲で、それぞれのジャンルが3年に一度のローテーションで選ばれるもの。また、作品は英語かフランス語で書かれたもので、過去3年以内に書き上げられたものに限りという条件となりそうである。

ミッチェル市長は、ダブリン市選出の国会議員でもあるが、この新しい文学賞が国際的な関心を引き起こし、文学における世界地図にダブリン市を刻印できることを期待している。ダブリンは素晴らしい文学的遺産を受け継いでいる街であり、この街の生み出したベケット、イエイツ、ジョイスという3人のノーベル文学賞受賞者による業績は、世界中のどの街も誇ることが出来ないものと、市長は語っている。

新しい文学賞の運営メンバーの中には、ジョイス研究家でトリニティーカレッジの講師のD.ノリスのほか、ダブリンで英文学を講義しているG.マーティン教授、前駐米アイルランド大使S.ドンロン等が加わっている。

第1回文学賞の実施は1994年頃になりそうである。

—The Bookseller '93年2月26日号より抜粋—

|                         |   |                      |   |                           |   |
|-------------------------|---|----------------------|---|---------------------------|---|
| 理事会報告 .....             | 1 | うちの会社 .....          | 4 | JBIA DIRECTORY 1993 ..... | 6 |
| 海外ニュース .....            | 1 | 雑誌ニューメディア委員会報告 ..... | 5 | 東京の坂と橋と文明開化(35) .....     | 7 |
| [1992(平成4)年1~12月、]      |   | ゴルフコンペ .....         | 5 | 広 告 .....                 | 8 |
| 洋書輸入通関統計とその分析(後編) ..... | 2 | レプ委員会について .....      | 6 |                           |   |

# 1992（平成4）年1～12月、洋書輸入通関統計とその分析（後編）

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

## 5. 主要国以外からの洋書輸入状況

（表8）主要6ヵ国以外で1992年1～12月に、書籍又は新聞・雑誌のいずれかで1,000万円以上輸入されている国の一覧表

（単位 百万円）

| 国 名     | 書 籍   | 新聞・雑誌 | 計     | 総合順位 | 前年順位 |
|---------|-------|-------|-------|------|------|
| 韓 国     | 372   | 37    | 409   | 11   | 10   |
| N.KOREA | 95    | 1     | 96    | 18   | 21   |
| 中 国     | 365   | 139   | 504   | 10   | 11   |
| 台 湾     | 212   | 6     | 218   | 13   | 13   |
| 香 港     | 1,511 | 331   | 1,842 | 5    | 6    |
| タ イ     | 15    | 36    | 51    | 21   | 25   |
| シンガポール  | 676   | 202   | 878   | 8    | 9    |
| 印 度     | 27    | 4     | 31    | 23   | 22   |
| スウェーデン  | 21    | 5     | 26    | 25   | 18   |
| デンマーク   | 28    | 74    | 102   | 17   | 20   |
| アイルランド  | 2     | 137   | 139   | 15   | —    |
| ベルギー    | 33    | 8     | 41    | 22   | 19   |
| ルクセンブルグ |       | 10    | 10    | 26   | —    |
| ス ペ イ ン | 347   | 4     | 351   | 12   | 14   |
| イ タ リ ア | 259   | 592   | 851   | 9    | 7    |
| ロ シ ア   | 29    | 2     | 31    | 23   | 12   |
| オーストリア  | 67    | 75    | 142   | 14   | 15   |
| カ ナ ダ   | 54    | 12    | 66    | 20   | 17   |
| コロンビア   | 10    |       | 10    | 26   | —    |
| ブラジル    | 6     | 117   | 123   | 16   | 23   |
| オーストラリア | 63    | 19    | 82    | 19   | 16   |

計 21ヵ国

（注）書籍には、単一シート、辞・事典を含み、新聞・雑誌には週4回以上を含む。

## 〔分析〕

輸入額の総合順位では、1位・米国、2位・英国、3位・ドイツ、4位・オランダとここまでは前年と変りないが、5位には香港がフランスを抜いて入り、6位・フランス、7位には前年のイタリアを抜いてスイスが地位を回復、8位になんとシンガポールが食い込み、9位・イタリア、10位・中国という順になった。

この表掲載国は21ヵ国で、前年の20ヵ国と比べると増えたが、'90の23ヵ国よりも少ない。今回はアイルランド、ルクセンブルグ、コロンビアが新しく入り、グリーンランドとマレーシアが抜けたが、グリーンランドを除

くこれらの国はボーダーライン上にあつて、現われたり消えたりしている。

## 6. 洋書関連商品の輸入通関統計表

（表9）1992年1～12月、洋書関連の商品別輸入一覧表

（単位 百万円）

| 品 名                           |              | 価 額    | 前年比 |
|-------------------------------|--------------|--------|-----|
|                               |              |        | %   |
| 幼児用の絵本及び習画本                   |              | 1,600  | 123 |
| 楽 譜                           |              | 805    | 87  |
| 地図・海図<br>その他これ<br>らに類する<br>もの | 地球儀・天球儀      | 194    | 87  |
|                               | 製本したもの       | 66     | 169 |
|                               | その他のもの       | 319    | 87  |
|                               | 小 計          | 579    | 92  |
| 葉 書                           |              | 854    | 95  |
| カレンダー                         | 紙製又は板紙製      | 1,315  | 108 |
|                               | その他のもの       | 111    | 121 |
|                               | 小 計          | 1,426  | 109 |
| その他の印刷物                       | 広告・商業用カタログなど | 3,541  | 99  |
|                               | 写 真          | 900    | 63  |
|                               | 絵画・デザインなど    | 3,818  | 63  |
|                               | その他のもの       | 17,751 | 95  |
|                               | 小 計          | 26,010 | 87  |

（注1）楽譜は、印刷したもの及び手書きのものに限るものとし、製本してあるかないか、又は挿絵を有するか有しないかを問わない。

（注2）地図、海図その他これに類する図は、製本したもの、壁掛け用のもの、地形図及び地球儀、天球儀その他これらに類するものを含むものとし、印刷したものに限る。

（注3）葉書は、印刷したもの及び挿絵を有するものに限る。また個人のあいさつ、伝言または通知を印刷したカードを含む。なお、この品目は'87までは、「絵葉書、クリスマスカード、その他これらに類する絵入りのカード」となっていた。

（注4）カレンダーは、カレンダーブロックを含むもの

とし、印刷したものに限る。

〔分析〕

絵本とカレンダーを除く洋書関連商品は軒並みにダウンしている。殊に写真や印刷書画、デザインなどの分野のダウンはひどい。バブル終熄の影響であろう。

(表10) 洋書関連商品の輸入の1980年比1992年の成長度

(単位 百万円)

| 品 名       | 1980  | 1992   | '80 : '92 |
|-----------|-------|--------|-----------|
|           |       |        | %         |
| 絵本        | 283   | 1,600  | 565       |
| 楽譜        | 596   | 805    | 135       |
| 地球儀など     | 496   | 194    | 39        |
| 地図・海図など   | 748   | 385    | 51        |
| 絵葉書など     | 143   | 854    | 597       |
| カレンダー     | 488   | 1,426  | 292       |
| 写真        | 471   | 900    | 191       |
| 印刷絵画・デザイン | 471   | 3,818  | 811       |
| その他の印刷物   | 3,270 | 17,751 | 543       |

〔分析〕

今回は書籍と歩調を合せ、1980年を100として'92年と比較してみた。商品毎に成長と減少の度合が良く分る。

7. マイクロフィルムと文献情報検索用磁気テープ

(表11) 1992年1～12月、マイクロフィルムの輸入通関統計表と'88年以降の推移

(単位 百万円)

| 品 名      | '88 | '89 | '90 | 1991 | 1992 | 前年比 |
|----------|-----|-----|-----|------|------|-----|
|          |     |     |     |      |      | %   |
| マイクロフィルム | 28  | 22  | 780 | 767  | 632  | 82  |

〔分析〕

マイクロフィルムは、品目番号表の変更によって1988年から独立した項目になったので、同年以来の経過を一覧表としたが、数字上では'88～'89年は全く実態を表さず、'90年から実情に近い数字となっている。

'92年の輸入先は、米国が断然1位で4.2億円、これに英国の9,500万円、ドイツの4,200万円が続いている。

(表12) 1992年1～12月、文献情報検索用磁気テープの輸入通関統計表

(単位 百万円)

| 品 名                                  | 価 額   | 前年比 |
|--------------------------------------|-------|-----|
|                                      |       | %   |
| 「磁気テープ」のうち「幅が6.5ミリを超えるもの」の中で「その他のもの」 | 3,708 | 75  |

(注) この品目はすべてが文献情報検索用磁気テープという訳ではなく、この価額の中に同テープが含まれているということである。

8. 輸出

(表13) 1992(平成4)年1～12月、書籍・新聞・雑誌の輸出通関統計表

(単位 百万円)

| 分 類         | 品 名             | '91, 1～12月<br>価 額 | '92, 1～12月<br>価 額 | 前年比 | 構成比   |
|-------------|-----------------|-------------------|-------------------|-----|-------|
|             |                 |                   |                   | %   | %     |
| 書 籍         | 単一シートのもの        | 440               | 638               | 145 |       |
|             | 辞典及び事典          | 286               | 269               | 94  |       |
|             | その他のもの          | 28,570            | 27,149            | 95  |       |
|             | 小 計             | 29,296            | 28,056            | 96  | 84.5  |
| 新 聞・<br>雑 誌 | 一週に4回以上発行するもの   | 164               | 226               | 138 |       |
|             | 新聞              | 5                 | 10                | 200 |       |
|             | 雑誌その他の<br>定期刊行物 | 4,916             | 4,927             | 100 |       |
|             | 小 計             | 5,085             | 5,163             | 102 | 15.5  |
| 計           |                 | 34,381            | 33,219            | 97  | 100.0 |

〔分析〕

'91年からの2年連続の減少である。しかし'91年の7.6%の円高、'92年の4.6%の円高を勘案すると、この程度の減少で済んでいることは良しとしなければなるまい。ただし相変わらず新聞の輸出が少な過ぎる。統計洩れであろう。

(表14) 1988～'92年、書籍・新聞・雑誌の輸出通関統計推移表

(単位 百万円)

| 暦年   | 書 籍    |     |    | 新聞・雑誌 |     |    | 計      |     |    |
|------|--------|-----|----|-------|-----|----|--------|-----|----|
|      | 価 額    | 前比  | 指数 | 価 額   | 前比  | 指数 | 価 額    | 前比  | 指数 |
| 1988 | 28,454 | 99  | 85 | 4,228 | 93  | 70 | 32,682 | 98  | 83 |
| '89  | 29,714 | 104 | 89 | 4,478 | 106 | 75 | 34,192 | 105 | 87 |
| '90  | 31,730 | 107 | 95 | 5,141 | 115 | 86 | 36,871 | 108 | 94 |
| '91  | 29,296 | 92  | 88 | 5,085 | 99  | 85 | 34,381 | 93  | 88 |
| '92  | 28,056 | 96  | 84 | 5,163 | 102 | 86 | 33,219 | 97  | 84 |

(注) 指数は1985年を100としたもの。

(表15) 書籍・新聞・雑誌計の輸入と輸出の比率推移表

| 分類 | 1979 | '84 | '85 | '86 | '87 | '88 | '89 | '90 | '91 | 1992 |
|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 輸入 | %    | 70  | 50  | 46  | 44  | 50  | 53  | 55  | 58  | 54   |
| 輸出 | 30   | 50  | 54  | 56  | 50  | 47  | 45  | 42  | 46  | 42   |

〔分析〕

1984年に5分5分となり、これを境に輸入、輸出の比率が逆転したが、'88年に再逆転し、輸入の方が多い状況が継続している。

(以上)

## うちの会社

### エルゼビア サイエンス パブリッシャーズ

日本支社長 深田良治

早いもので、1974年の末に日本にエルゼビアのASP東京連絡事務所が設立されてから約20年が経った。当初の目的は日本におけるローカルプロモーションの強化であったが、現在では「情報の発信基地」としての日本に注目し、日本の研究者の原稿を積極的に集める努力もしている。ヨーロッパでの「M & A」の分野で注目をあびているオランダ本社の最近の動きが東京にも反映されている。1991年の秋には、パーガモン東京事務所の人員の一部と全機能が日本支社に統合された。オランダ本社は、今年の1月より「リード・エルゼビア社」の新しい名前のもとに、石油のシェル社や食品のユニリーバ社型の英蘭の合併会社として新たに発足しているが、これは現在のところオランダ本社に限ら

れ、その下にある各事業部門や支社レベルでは影響は出ていない。日本でもこの点については同様で、変化はない。

学術出版社にとって、この20年間は大変大きな意味を持つ転機であったと言える。70年代の中間まではエルゼビアの主力製品はあくまでもモノグラフであったが、次第にジャーナルになり80年代の終わりからニューメディアの製品が出てきた。科学情報に限れば、90年代には伝統的な「紙の出版」と新しい型の「電子出版」との間にある隔壁が取り払われ、新しい型が生まれると思われる。本社でもR & D部門が積極的に活動しており、その成果が日本市場で見られるのも遠いことではない。

## 雑誌・ニューメディア委員会報告

去る3月23日に港区商工会館に於てニューメディア説明展示会が開かれた。これはJBIAの雑誌・ニューメディア委員会が主催する勉強会の一環で、今回は最近隆盛しているCD-ROMが取り上げられた。出展関係者を含め全32社、計66名の参加と盛況であった。

1. ユサコ(株)の松山氏、(株)紀伊國屋書店の本木氏によりCD-ROMの販売、出版の現状について講演が行われ、ニューメディアのビジネスが既に我々の業界にとっても重要な位置にあることが確認された。

両氏の発表で、北米の電子情報サービスをメディア別にみるとCD-ROM 1990/1995年平均の成長率はオンラインデータベースの6.0%に比べ40.5%と高率になっていること、また同期のシェア変化もオンライン▲14.3%に比べ、CD-ROM △11.9%とオンラインのシェアを奪う形となっているとの報告があった。

|        | 1990  | 1991  | 1992  |
|--------|-------|-------|-------|
| オンライン  | 4,465 | 4,912 | 5,403 |
| CD-ROM | 1,694 | 3,389 | 6,438 |

(Optical Publishing Associationの予測)

この背景には従来印刷物で提供されていた2次資料などが相次いで検索に便利なCD-ROM化されつつあり、これは我々の業界でもニューメディアを積極的に取り扱わざるを得ない状況になっていることを示唆しているのではないか。

ニューメディア商品の販売は印刷物と違い技術サポートを必要とするので、これを有償化した体制を確立することが急務である。又、海外のCD-ROMを扱うにあたって障壁となっているのがハード環境の問題である。海外のCD-ROMは通常IBMコンパチ、マッキントッシュで動くよう出来ており、NECパソコンが普及している日本では、導入したい顧客でも設備と合わないため見合わせる事もあるので何らかの対策が必要になる。今後多くのCD-ROMがウィンドウズ版に対応するようになればパソコンメーカー間の壁は取り除けるかも知れない....など示唆に富む問題が説明された。

2. 講演の後、JBIAメンバー出版社レブ商品の説明と展示が行われた。出展社は次の通り。

ELSEVIER SCI PUB: EXCERPTA MEDICA, OPAL  
THOMSON/CHAPMAN & HALL: CHCD DIC OF  
NATURAL PRODUCTS

BUTTERWORTH: BOOKS IN PRINT, ULRICH'S PLUS

BAKER & TAYLOR: BT LINKS

UMI: ABI INFORM

OXFORD UNIV PRESS: OXFORD ENGLISH DICTIONARY

この催しは変化の激しいニューメディアに関し、会員各位の意見を交換するよい機会であった。

(株)紀伊國屋書店

湊 周二

## 第67回72会ゴルフコンペ

1993, 3. 18(木)狭山ゴルフクラブ

3月とはとても思えない暖かい天候の下67回コンペが行われました。天気のことですごく心配だったというコースメンバーの中林さん(日賀)の願いが通じたのかも知れません。半袖姿でスタートする元気者もチラホラと。過去何回かこのコースでコンペが行われていますが、とにかく長い。かなり飛ぶ人でもパーオンを狙えるホールが少ないコース。その上両サイドは林、入れば1打2打は間違いなくロス、やっとグリーンにのってホットしても平らな所のない気の抜けないパッティングが待っています。皆さんだいぶ苦労したようです。いつもはハーフ30台か40台前半でプレイするシングルプレイヤーの斎藤さん(UPS)もやっと50台を切れたとため息。そして激戦を制したのはなんと後藤さん。いよいよ72会初の女性シングルプレイヤー誕生。男性達もう慣れた様でカッカする人もいなくなりました。

|     |            | GROSS | H.C. | NET |
|-----|------------|-------|------|-----|
| 優勝  | 後藤明美(ベーカー) | 94    | 11   | 83  |
| 準優勝 | 相良広明(協会顧問) | 97    | 11   | 86  |
| 3位  | 池田 優(ユサコ)  | 100   | 14   | 86  |

ベストグロス大野 俊(丸善OB) 94

ドラコン 大野 俊(丸善OB)

" 斎藤純生(UPS)

ニアピン 藤井嘉明(第三書房)

" 鶴 三郎(東亜ブック)

(S.W.記)

## レブ委員会について

JBIA 会員の中で海外出版社の代理店業務を主に行っている会員、いわゆるレブ会員は約30社あります。決して少ない数ではありませんので、共通の利益のために、その存在価値を高めて行こうと云うのがレブ委員会の目的です。16社の参加をいただき昨年9月よりスタートいたしました、副委員長には洋販の柴山さん、HBJの皆川さんにお引受けいただきました。委員長はUPSです。

昨年12月2日午後3時より卸委員会と合同で初懇談会を開催いたしました、出席者多数(20名)のため、協会事務所では狭いので洋販さんの大会議室をお借りしました。議題は折りからショッキングなニュースであった中央洋書問題と今後の委員会活動についてと云うことでしたが、活潑な議論となり予定の2時間は、あっと言う間に過ぎました。

特に中央洋書問題については、未曾有の負債額であること、直前まで協会の理事であったこと、事後処理が全くなされてないこと等、出版社に対する信用問題として、果してJBIAは関係がないと云って済ませられるかと云う意見もありました。

又既にレブ委員会とは関係ないところで行われて来たレブ会員同志の共同活動として、長い実績のあるELT(語学教材)の共同展示会について、ブレンティス・ホルの小野さんから、更に最近マスコミにもとり上げられ話題となったアメリカの教科書の展示即売会についてHBJの山口さんから、それぞれ説明があり大きな反響を呼びました。

現在レブ会員の半数以上(16社)が賛助会員ですが、同じ会費なのに理事の選挙権も無いのはおかしい、出来れば純粋レブの理事を選出したい等、注目すべき意見もありました。皆様のご理解とご協力のお陰で、楽しく、有意義な懇談会でした。

UPS 上杉勝良

# JBIA DIRECTORY 1993

(洋書輸入協会ダイレクトリー—1993年版)

|             |      |      |                 |
|-------------|------|------|-----------------|
| 25.7×18.2cm | 360頁 | 会員価格 | 2,200円 (送料共)    |
|             |      | 一般価格 | 4,500円 ( 〃 )    |
|             |      | 海外価格 | 8,000円 (航空便送料共) |

丸善・本の図書館 鈴木陽二

ドストエフスキーやトルストイの作品にも記されているエリセーエフ兄弟商会はツァーリ帝政時代に高級輸入食料品を商うロシア有数の富豪であったが、後年「日本学の始祖」と呼ばれることになるセルゲイ・エリセーエフ (Serge Grigorievich Elisseeff) はその御曹司として1889年にサンクト・ペテルブルグに生まれた。長ずるにおよび名門ラリンスキー校 (エカテリーナ二世が創立) に入学し、在学中にパリ万国博 (1900年) で東洋文化に触れたのがきっかけとなってジャパノロジストへの道を選び、ベルリン大学の付属東洋語学院に進む。そこでたまたま留学中の新村出に出会ったのが幸いして、帝国大学文科大学教授上田万年に紹介され、勇躍あこがれの日本に旅立つ。1908年 (明治41)、時にエリセーエフ19歳であった。彼はその年から大正3年 (1914) まで滞在し、その後も何回か来日しているが、彼の「菊富士ホテル」止宿の時期は残念ながらはっきりしない。ともあれ、この偉大な日本学者エリセーエフを通して、フランスとアメリカでの黎明期日本学を瞥見してみたい。

さて、入学願書に「英利世夫」と日本名で署名した彼は帝国大学初めての外人留学生として無事に入学が許可される。大学では上田万年や芳賀矢一などから国文学、漢文、日本語などを受講したが、講義のノートもろくろくとれなかったという日本語の習熟には並々ならぬ苦心をしたようで、家庭教師について1日12時間も学習に取り組むという苦闘ぶりであった。日本語の勉強のために本牧亭など寄席通いをし、好きな小さんの台本を手に入れて江戸弁の練習をしたり、また日本文化の体験のため、豊富な資金にものをいわせて新橋や柳橋、時には京都の先斗町などの花柳界に出入りして大尽遊びをやったり、歌舞伎にもすっかり熱中して菊五郎や吉右衛門など最顶层役者への肩入れも相当なものであったようだ。

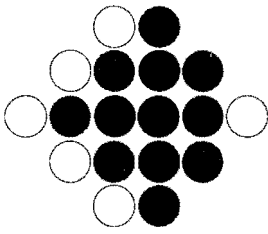
帝大入学が決まって根津権現下の本郷弥生町に大きな純日本式の家を借り、女中2、3人おいて和服と日本料理の生活を送るエリセーエフは、人に好かれる性格の美男子で上流社会の貴婦人や令嬢に人気があり、高価な大島やお召などを贈られて着ていた、と日本舞踊で親しくなった森田たま女史は回顧している。

一方、彼は文人との交際も広く、夏目漱石の主催する木曜会に出入りしてその門下生となったが、漱石への心酔ぶりは生涯続き、例えば帰国後ペトログラード大学での日本文学の講義に漱石の『門』を、またハーバード大学では『社会と自分』を教科書に使用している。谷崎潤一郎、芦田均、森田草平などとも交友し、谷崎の紹介で耽美主義文学者の集まりである「パンの会」に入会したり、また彼の家には永井荷風や久保田万太郎などが出入りして、まるで文学サロンの観があったという。上田万年に紹介された小宮豊隆とは無二の親友となり、日露の演劇についての知識交換など学問的な交際だけではなく、遊びの方も息の合う緊密な朋友であった。

彼は国語学科を正式に卒業した最初の外国人で、卒業論文は『芭蕉研究の一節』という難しいテーマを選びながらもその出来栄は優れたもので、卒業の時は準優等の栄冠を獲得している。卒業祝いには友人たちを招待して柳橋のきれいどころを総揚げし、隅田川に屋形船までくりだすという豪勢なものであった。卒業後は日本文学の研究を深めるため大学院に進み、さらに勉学の2年間は日本で送り、大正3年 (1914) に日本を去る。

帰国後ペトログラード大学東洋学部日本語科で日本文学と日本現代語を教える講師となったが、1917年のボルシェヴィキ10月革命で財産が没収されてからは、三日月がクロワッサンに見えるほどの空腹を抱え、蔵書を燃料にして暖を取るような苦しい生活の毎日となった。この頃吹き荒れた肅正の嵐に巻き込まれて、1919年にはついにペトログラード監獄に収監されたが、この時監獄に持ち込んだ本は漱石の作品集であったという。幸いに10日間の拘留で釈放され、ペトログラード大学に復帰し助教授に任命されたが、ボルシェヴィキ政権下での学究活動に絶望して亡命に踏み切り、1920年にフィンランドへ海路脱出に成功した後1921年にパリに亡命する。革命政府下のソヴィエトで送った彼の苦難の体験記『赤露の人質日記』は日本語で書かれ、大正10年朝日新聞に45回にわたって連載された。上陸地フィンランドの助けを求めた家で白パンを見た子供の嬉しそうな顔に触れた日記の最後の一節を、彼はどういう気持ちで記したのであろうか。

生物・医学分野の学生、研究者、指導者のための  
コンピュータによる教育/学習システム



# OPAL

Open Programs  
for  
Associative Learning



ELSEVIER  
SCIENCE PUBLISHERS

OPAL はコンピュータテクノロジーとハイパーメディアの原理を生かして作成された教育と学習のための画期的な対話式システムです。OPAL を利用することで、細胞生物学、生物医学の様々な情報を入手できます。OPAL による学習過程には特定の順序や決まりきったパターンなどありません。ユーザーは自由に自分の知識に合わせた学習ができるのです。OPAL は直観・連想教育のツールとしてご利用いただけます。

## OPAL 機能概要：

- ☐ アイコンや「sensitive zone」をクリックすると、自分の知りたい情報がイラストやテキストで表示されます。
- ☐ アニメーションや実験シミュレーションでユーザーは自由に学習体験できます。
- ☐ 学習事項をテスト採点し、間違った点は再復習できるよう自動的にプログラムします。
- ☐ 「Teacher version」で自由な順序でレッスン用プログラムを作成できます。
- ☐ 「Question Maker」で学習評価のためのテストを作成できます。（「Teacher version」）

### ■Macintoshバージョン

Macintosh SE/30 以上の機種  
RAMの空き容量：2MB 以上  
必要とするハードディスク容量：3MB  
(1モジュールあたり)

### ■IBMバージョン

CPU：80386 以上の機種 (IBM 互換機を含む)  
RAMの空き容量：2MB 以上  
必要とするハードディスク容量：2MB (1モジュールあたり)  
OS：MS-Windows Version 3.00 以上  
ディスプレイ：VGA 対応ディスプレイ  
提供ディスクサイズ：3.5 インチ  
○ 5.25 インチフロッピーディスクもご用意できます。

### [1] Teacher version Dfl. 600.00/1コピー

#### Teacher version 機能概要

- 生徒向けの学習用プログラムを大きなスクリーンへ投射可能
- 「Question Maker」でテスト問題の作成が可能

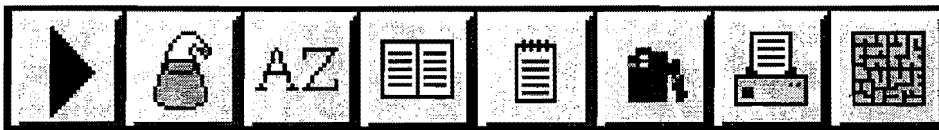
### [2] Student version Dfl. 350.00/1セット

- 1セットに5コピー含まれています。
- 「Teacher version」をセットの場合のみ購入可能です。

デモプログラムをご希望の方は、下記宛て、ファクシミリまたは郵送にてお申し込み下さい。

## エルゼビア サイエンス パブリッシャーズ 日本支社

〒113 東京都文京区湯島3-20-12 ツナシマビル・アネックス  
☎03-3836-0810 FAX 03-3839-4344



1993年 5月 通巻第312号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎ (03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920